

令和2年度 都農町立都農小学校 ～ 自己評価書及び学校関係者評価書 ～

校長 外山 保宏

学校の教育目標：「知・徳・体の調和のとれた心豊かな児童の育成」学校経営ビジョン：「今この時、個が輝き、躍動し、伸びている都農小学校」		《評価基準・・・4；期待以上 3；ほぼ期待どおり 2；やや期待を下回る 1；改善を要する》			
評価項目	現 状	自己評価	成果と課題及び改善策	評価委員の意見 (○：成果 ▲：課題→：課題改善のための手立て)	評価
<p>確かな学力の定着・育成を図る教育の推進</p> <p>①4つのチェックポイント、読解力の育成を意識した授業の改善</p> <p>②望ましい学習習慣の定着</p> <p>③読書活動の推進</p>	<p>① 職員研修の充実～若手もベテランも共に学び、共に高め合う職場環境づくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 確実な学びのための4つのチェックポイントを基に、相互に授業を参観したり、互いの技を共有したりする研修システムを整えてきた。 <ul style="list-style-type: none"> ・相互参観週間（自由に授業を見合う取組）【6月、10月、1月の年3回】 ・「ミニOJT交流会」での指導技術の共有 ・メンター長（チームリーダー）を中心とした小グループでの授業研究 ○ ICT機器を効果的に活用した授業を構築してきた。 ○ 授業力向上に係る町教職員研修会を11月に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ◆意識調査「学習内容の理解」の肯定回答率 【児童86%、保護者90%】 <p>② 学習態度・学習習慣の定着に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年、立腰の姿勢で号令をかけ、良い姿勢での学習の意識を図る。 ○ 家庭における学習習慣の確立に向け、「自学ノート展」、「家庭学習の手引き」の活用、「学力向上月間（K1、S1グランプリ）」等を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ◆意識調査「家で復習している」の肯定的回答【児童82%、保護者73%】 <p>③ 読書環境の充実及び家庭と連携した読書指導への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町費及びPTA購入の新書により、児童が本を手に取りやすい環境となってきた。また、図書司書補助の職員による読書環境整備も行われている。 ○ 教師による読み聞かせを実施した。 ○ 町立図書館（移動図書館）を活用した取組を行っている。 ● 新型コロナウイルス感染症対策のため、外部人材による読み聞かせを中止せざるをえなかった。 <ul style="list-style-type: none"> ◆意識調査「家でも読書をしている」の肯定的回答【児童：76%、保護者：60%】 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員研修では、相互にアドバイスできる「相互参観」を機に、日々の授業を大切にすることで、授業力向上につながっている。 ○ 今後は、全児童分のタブレットも導入されるので、効果的に活用した授業に取り組んでいきたい。 ○ 学習中、立腰の姿勢が崩れがちであったので、声かけをして授業に集中できる習慣を養いたい。 ○ 読書については、読み聞かせの回数が減ってきているので、関心をもたせられるよう工夫をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相互参観週間の取組等、20代～50代の職員同士で意識・指導の共有をしているのはとても良い。コロナ禍で研修会もできないだろうが、リモートなど情報収集に努めて欲しい。 ○ 図書司書補助の存在は、図書室充実の一步前進である。 <ul style="list-style-type: none"> ▲ 自宅での読書回答が低い。親子のコミュニケーション、読書による対話により情報伝達が欠かさない。読む力、聞く力を高める取組が必要である。⇒ 漫画等であっても文字にふれる機会をつくれるとよい。 ▲ 読み聞かせがコロナ禍で中止になり、残念だった。⇒ タブレットが配付されているので、「リモート」での読み聞かせも可能になるのではないか。（コロナ対策を考慮しながら） ▲ 全児童へのタブレット配付にあたって ⇒ 使用時間の制限、姿勢を正すこと、視聴覚教具と材料等の留意が必要である。 	3.2
<p>豊かな心を育む教育の推進</p> <p>①基本的な生活態度の育成</p> <p>②心と命の教育の推進</p> <p>③学習・生活環境の整備</p>	<p>① 基本的な生活態度の育成に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎学期、あいさつや清掃をはじめとする生活態度の育成のため、名人の表彰等を行っている。また、生徒指導週間等を設定し、全職員で取り組んでいる。 ○ PTAと連携した「あいさつ運動」の取組（今年度はボランティアを募った。） <ul style="list-style-type: none"> ◆意識調査（あいさつについての肯定回答率）・・・【児童93%、保護者91%、教師 77%】 ◆意識調査（返事についての肯定回答率）・・・【児童94%、保護者89%、教師 78%】 ◆意識調査（清掃についての肯定回答率）・・・【児童95%、 — 、教師100%】 <p>② 心と命の教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月の心のアンケート（親子心のアンケートは年2回）を実施し、教育相談をしたり、いじめ不登校対策会議等を開いたりして、全職員で共通理解を図っている。 ○ 動物愛護センター協力による授業の実施、福祉教育の充実（4学年以上） ○ 三先生を偲ぶ会、命の日（毎月18日）及び命の教育週間への取組 <ul style="list-style-type: none"> ※ 命、人権に関する行事は中止せずに実施できる方法を検討してきた。 ○ 朝のボランティア活動の活性化（毎朝4年生以上の児童が参加、影響を受けた低学年も参加） ○ 人権強調週間（5月、10月、2月）、人権集会（12月）への取組、 <ul style="list-style-type: none"> ◆意識調査（笑顔で楽しく生活の肯定回答率）【児童96%、保護者97%、教師100%】 ◆意識調査（思いやりのあるやさしい行動の肯定回答率）【児童95%、保護者95%、教師 92%】 <p>③ 支援員やスクール・サポート・スタッフ、スクール・ソーシャル・ワーカーの活用・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年生に支援員を配置し、小1ギャップを軽減したり、支援が必要な児童にかかわってもらい、学習に集中できる環境づくりを行った。 ○ スクール・ソーシャル・ワーカーとの連携が、気になる児童、保護者への大きな支援であった。 ○ スクール・サポート・スタッフが働き方改革に大きな力を発揮した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつや返事について、時と場に応じたあいさつに取り組んでいく。 ○ 毎月の「心のアンケート」を通して、教育相談を行ったことで、早期発見・解決につなげることができた。しかし、それだけでは見えない児童同士の関係もあるため、アンテナを高くし、些細な児童の変化や様子について全職員で情報を共有し、今後も組織で対応していきたい。 ○ 関係者、関係機関、サポートスタッフの連携をさらに進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつや会話により、表現力が培われていると思う。さらにあいさつ運動を推進して欲しい。 ○ 名人の表彰式、素晴らしい。 ○ あいさつ運動で地域のボランティアを募ったことはよいと思う。 ○ 親子心のアンケートは、大切な事である。 ○ コロナ禍、三先生を偲ぶ会など命・人権に関する行事を実施できるよう検討され、苦勞が伝わってくる。 ○ SSS、SSW の協力が有難く、スペシャリストで良かった。SSSの来校回数が増えると良い。 ▲ 家庭でもだが、職員の子どもへの叱り方も注意が必要である。⇒ 良い叱り方を、家庭・学校で共有できると良い。 ▲ 学校・家庭問題等、勉強以外の負担が先生に多くあるようである。⇒ 学校以外のことは、各家庭の中で解決する仕組み、意識作り等を行っていく。 ▲ 豊かな心と命について ⇒ 些細なことでも、良いこと・正しいことは褒める。先生・保護者・子どももストレス解消法を見つけ、プロのカウンセラーなど相談できる場所を。 	3.4
<p>たくましい体づくりの推進</p> <p>①体力づくりの運動の充実</p> <p>②健康教育と食育の推進</p> <p>③危機管理と安全教育の徹底</p>	<p>① 「体力向上プラン」を作成し、それに基づいた取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育の時間、業間運動（持久走・なわとび等）や昼休み時間（遊びの推奨）における取組を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ◆意識調査（運動・遊びについての肯定回答率）・・・【児童90%、保護者79%、教師85%】 <p>② 望ましい生活習慣づくり（早寝、早起き、朝ご飯、ノーメディアの指導）への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎週月曜日実施の「さわやか調べ」で日曜日の就寝時刻を振り返らせる。 ○ 健康指導週間での「がんばりカード」（就寝時刻やゲーム時間のチェック） <ul style="list-style-type: none"> ◆意識調査（テレビやゲームの時間を決めているの肯定回答率）・・・【児童82%、保護者71%】 ◆意識調査（早寝・早起き・朝ごはんの肯定回答率）・・・【児童88%、保護者85%】 ● 新型コロナウイルス感染症による臨時休業期間が長かったためか、家庭における児童のメディアにふれる時間が多くなり、寝不足や遅刻につながる傾向にあった。 <p>③ 危機管理と安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種行事の実施について感染防止対策の視点から最大限の注意を払って検討してきた。 ○ 新型コロナウイルス感染症対策については、全員マスク・手指消毒・検温・換気等の対応を取っている。 <ul style="list-style-type: none"> ◆意識調査（手洗いやうがいの肯定回答率）・・・【児童94%、保護者87%、教師92%】 ○ 不審者情報や台風情報等メール配信ができる「都農小安心メール」へ100%加入してもらい、情報の共有を行った。 ○ 避難訓練を年6回実施（経路確認、風水害、地震、シェイクアウト、火災、地震） ○ 大雨を想定した、緊急引き渡し訓練を実施し、本番に生かした。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ メディア教育については、家庭でのルール作りを啓発していく。また、インターネットや携帯等のトラブルもあることから、学校において参観や懇談、家庭教育学級等での情報教育に力を入れていく。 ○ 今後も、新型コロナウイルス感染症予防として、マスク着用・手指消毒、検温・換気等、学校で可能な対策を徹底して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童と先生達との信頼関係が見えて大変良い。 ○ 日曜日の就寝時刻調査は、大切なことである。 ○ 安心メールは、毎回素早い対応で、親は安心できる取組だと思う。 ○ コロナ対策は、子ども達にも危機管理の意識を定着させることになったのではないかな。 ▲ 本年度は特に、家にこもりがちで外に出る、体を動かすことができない年だった。子ども達の姿もあまり見なかった。⇒ 子ども達が学校に来るのが楽しいと、習慣付けることが体づくりに必要である。また、好きな運動を選びずっと続ける意志も必要である。 ▲ タブレット配付にも、良い面や悪い面がある。⇒ 課題も多いが、良いアイデアを出して行って欲しい。 ・ 今後、コロナ対策はもちろん、子ども達の家庭、親の失業による生活面、家庭内でのDVなど、学校生活と離れたところでの諸問題が多くなってきそうである。心身ともに元気に過ごして欲しい。 	3.3

